平成２８年度 第１回吹田市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議
開催結果概要

１　日時・場所	
平成２８年４月１８日（月）１５：３０～１７：３０　・　特別会議室	
２　出席者	
【委員】 北村委員、寺本委員、髙木委員、天鷲委員、北委員、水上委員、西村委員、舩戸委員 【事務局】 岡松企画財政室長、堀参事、北澤参事、薬師川主査、嶋尾主査、小柏係員、藤巻係員	
３　案件内容	
（１）進捗評価（検証）について （２）評価方法及び評価結果の取り扱いについて	
４　主な質疑・意見等の内容	
水上委員	シティプロモーションについて、発信力ということでは東京に拠点を持つ方が良いのでは。
北村委員	吹田市では人口減少は緩やかに進むということだが、一旦拡大した公の施設をどう縮小していくのか、これら施設のメンテナンス費用がくびきとなって、市の様々な政策の実施を制約してしまう可能性がどこまであるのかを見ていく必要がある。
北委員	・吹田のまちを活性化することによって、市民にどういうメリットがあるのか、市民の利益まで落とし込んで取組を考える必要がある。 ・基本目標４として「誰もが安心して暮らせる『幸齢社会』が実現するまち」があるが、高齢社会になるとコミュニティの中をどのように移動するかが課題になる。行動を拡大すること、今までの行動を維持することは介護予防等にも関連する。幸せな高齢社会の実現を考える時、市として高齢者の移動手段の確保を検討すべき。
高木委員	総合戦略には、細かいプランは多く記載されているが、大枠が分かりにくい。市が描くビジョンをしっかり出していく必要がある。モデルとするまちはどこかを示すことで方向性が見えてくることも考えられる。東京では若い人が暮らしやすいまちづくりに取り組んでいると思われ、そうした自治体をモデルとすれば、本市のまちづくりにも生かせるのではないか。
西村委員	・吹田市は様々な分野で色々な施策を実施し、平成２７年度の取組もこれだけやってＡＢＣの評価を行っているが、果たして市民の満足度と合致しているのか疑問。吹田市では特にこれをやるのだという目玉があった方が、市民にも分かりやすい。「健都のまちづくり」がそれに当たると思うが、単にハード的にまちを作っていくのではなく、こういうまちができるのだということを地域発信、さらに全国に広めていくことが重要。 ・北摂ブランドについても、吹田市として何か１つ自信を持って他市をリードし、ブランドとしていきたいものを持った方が良い。 ・吹田市は待機児童が多いエリアや高齢者の比率が高いエリアなど、地域で差があると思われる。こうした要素を市民にも分かりやすく資料に落とし込み、エリアごとに取組を行っていくことも重要。

西村委員	・ガンバ大阪のホームタウンについて、今回、北摂７市がガンバ大阪のホームタウンとなった中、スタジアムがある吹田市では何をするのか、他市との差別化をどう捉えるのかを明確に打ち出す必要がある。
舩戸委員	大学生が利用している奨学金制度は、ローン会社のものに近く有利子になっていて、大学を卒業したら月４、５万円の返済に追われ、結婚もできないという状況にある。吹田市には多くの大学があるので、市として無利子で借りられる奨学金制度を考えてもらいたい。
寺本委員	・基本目標の３基本的方向（２）の施策③保育の量的拡大・確保について、低年齢児の保育枠確保のために小規模保育所を増やしても、幼稚園の認定こども園化を進めておかないと小規模保育所を出た後の受け皿がなく、問題を先送りしただけになる。保育の量だけでなく質も検討した上で、来年度以降の施策を考えてもらいたい。 ・切れ目のない子育て支援につなげていくため、妊婦と面談を行って記録を取ったカルテを継続的に維持できるシステムを作り、本来のネウボラとなるよう取り組んでもらいたい。
北村委員	・吹田市として、どこをターゲットにするのか、少し絞ってもらいたい。吹田市の人口の推移に適したもの、吹田市ができること等、細かな制度設計は後々決めれば良い。吹田市は地域ごとに特色や課題が異なるため、メリハリが重要になってくる。データをもとに少し時間を掛けて検討すれば、どういうふうにやっていくのがいいのか見えてくると思う。この類の話は時間を区切って、ある程度のところで決断し、後は周知徹底を図る方が良い。
髙木委員	吹田市はこれまで住民向けの施策に重点を置いてこられている。一方で、まちを活性化させるには企業の活性化も必要。お金をかけずとも、企業と大学生との関係を構築するなどして、吹田市ならではの特徴的な支援を考えてもらいたい。
舩戸委員	江坂には大企業は少ないが、中小企業は大変多く、そうした会社から市民税を得るのも１つ。江坂は非常にアンバランスなまちになっており、中小企業が多い一方で、新大阪に近いため単身赴任者が多い。そうした特徴を把握し、全体のまちづくりを進めるべき。
北村委員	既存の市民、大学、企業等にどうやって付加価値を付け、どう活用していくか。弱者へのセーフティネットも当然必要だが、歳入を得ていくことも必要なので、既存の市民が気持ちよく税金を払えるよう、そしてサービスを受けられるということが売りとなって、他から若い人たちに来てもらう。これが吹田市の戦略ではないかと思うが、そのためにどうすべきかを考え、この総合戦略に盛り込んでもらいたい。
北委員	基本目標が１から４まであるが、１つの基本目標が他の基本目標とリンクをしているのかが見えない。恐らく総花的で目玉が何か分からないので、それぞれの分野の目標を立てることしかできなかったのではないかと思う。
天鷲委員	吹田市として、どこに注力するのかをある程度絞った中で、我々各分野の者があらゆる方面から意見を述べ、ブラッシュアップしていくとより良いものができ、方向性が見えてくるのではないか。吹田市が今、何によって伸びているのかに注目することも１つの方法と考える。